

水産業のさかんな地域① (教科書 88～103 ページ)

氏名()

①あなたはどのような水産物(魚介類)を食べていますか。

水産物の名前

②日本の周りの海にはどのような海流が流れているでしょうか。また、日本の周りの海ではどのような水産物がとれるでしょうか。教科書 89 ページの「日本の主な漁港の水あげ量と、養殖のさかんなところ」で調べましょう。

【海流】

暖流(あたたかい流れ)		
寒流(冷たい流れ)		

【水産物】

<暖流の近くでとれるもの>
<寒流の近くでとれるもの>

③教科書 89 ページの資料で、水あげ量が多い漁港はどこでしょうか。

1位	2位	3位	4位	5位

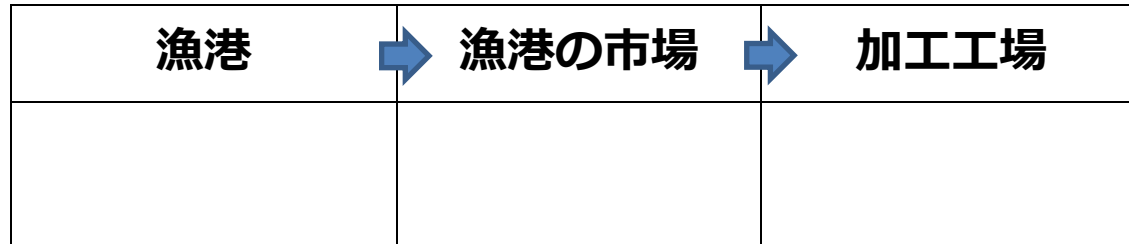
④北海道の根室では、どのようにさんまをとっていますか。教科書 90・91 ページを見て答えましょう。

とり方のくふう	
船や道具のくふう	
港までの運び方のくふう	

水産業のさかんな地域② (教科書 88～103 ページ)

氏名()

- ① 漁港で働く人たちは、とれたさんまをどうしているのでしょうか。教科書 92・93 ページで調べ、作業の流れを書きましょう。



- ② 教科書 92 ページの「せりでさんまにつけられた値段のちがい」を見ると、8月と10月ではさんまの値段が大きくちがいます。どうしてだと思いますか。

- ③ 加工工場では、さんまを新鮮なまま出荷するためにどのようにくふうをしているのでしょうか。

- ④ 根室のさんまを全国に運ぶために、どのような交通機関が使われているでしょうか。教科書 94・95 ページで調べましょう。

--	--	--

- ⑤ 根室で水あげされたさんまが、自分たちの住む地域のスーパーマーケットで売られるまで、何日かかるとおもいますか。

日

- ⑥ さんまを新鮮なまま運ぶために、運送会社の人はどうくふうをしているのでしょうか。

- ⑦ 学習した感想を書きましょう。

水産業のさかんな地域③ (教科書 88～103 ページ)

氏名()

① 養殖のさかんな鹿児島県では、ぶりをどのように育てているでしょうか。教科書 96・97 ページで調べましょう。

○ 長島町では、 年ほどかけて、ぶりの稚魚を大きく育てている。

○ 長島町の海は、近くを が通るので、冬でも水温が高く、ぶりを育てやすい。

○ 波がおだやかな入り江に、 を設置して、 のぐあいで魚を分けて育てている。

○ 年間を通じて、 にぶりを育てて出荷している。

② 波がおだやかな場所で、ぶりの養殖をしているのはなぜだと思いますか。

③ 養殖業者の人は、ぶりのえさについてどのようなくふうをしていますか。

④ 教科書 92～95、97 ページを見て、根室のさんまと鹿児島の養殖ぶりのとどけ方、運び方を比べましょう。

共通点 に 似ている点	
ちがい	

⑤ 日本の漁業生産量（養殖業をのぞく）はどのように変化していますか。教科書 98 ページ **エ** のグラフを見て答えましょう。

⑥ 教科書 98 ページ **ア** 「さんまの生産量の変化」と **イ** 「養殖ぶりの生産量の変化」を比べて、気がついたことを書きましょう。

⑦ さんまの生産量の変動が大きいのはなぜでしょうか。

水産業のさかんな地域④ (教科書 88～103 ページ)

氏名()

- ①世界の水産物消費量が年々増え続けている中、資源の減少(水産物が減ってしまうこと)をくい止めるために、どのようなことが行われていますか。教科書 100～101 ページから、できるだけたくさん見つけましょう。

--

- ②漁師りょうしや加工工場、運送会社の人などが、共通して大切にしていることは何でしたか。

--

- ③これからの水産業に大切なことは何でしょうか。「生産者」「わたしたち消費者」「世界との関わり」の三つの見方で考えましょう。

	大切なこと	理由
生産者		
消費者		
世界との関わり		